

俳句・短歌を募集

5日必着

作品には、ふりがなをつけ、住所・
氏名・電話番号を明記して
企画財政課までお寄せください。
1人1句、1首に限ります。

短歌（投稿順）

長年のご苦労受けし薔薇・百花あふれ咲きおり五月のガーデン
友誘い甥のコンサート決りたる本場のオペラ生を楽しむ
今日もまたスリーパットを馬鹿にするほーほけきょーのウグイスの声
幼日に皆と遊びし前山に栗の花咲き今真つ盛り
丸き背を伸ばせないかと娘は撫でる老化現象無理と笑み合ふ
照り降りの騒がしき日は読み止しの本など開き無口に過す
細きつる網に絡ませ胡瓜伸ぶ何とも清し朝の畠に
罪のない多くの人が逝つたとさたつた一発八月六日（レ）の朝八時十五分
庭先に古木一本山桜枝葉を広げスローなフラーを
紫陽花を語るニュースのアクセント聞き習はねど標準と知る
衣柄には譲り受けたる訪問着従姉を偲ぶ遺品となりぬ
スーパーに新茶試飲のコーナー有り香りにさせわれ含むひと口
成人す太宰と同じ誕生日こぼれゆくもの拾いもせずに

皆野 根岸 杏子
皆野 大澤 貴夫
皆野 新井 節子
皆野 浅見 豊子
皆野 三沢 叶子
皆野 新井 民子
皆野 石原 達也
皆野 戸塚喜久雄
皆野 打木 昭廣
皆野 村田ハツ代
皆野 引間 万亀
皆野 藤原マキ子
皆野 太幡琉美花

俳句 根岸茉莉 選 投稿数 16 句

かな文を闇につづるか螢の火
ホム
〔説〕夏の季語として多くの人に詠み親しまれる螢。活発に飛びまわるのは源氏螢の雄で雌を呼ぶ行動とか。蒸し暑い夜は螢狩りのチャンスです。森や川の匂いの風、せせらぎの音が耳に優しい。杉木立の闇を背景にゆるやかな曲線やストーと流れる直線を描きながら舞う螢。その光の線が作者には美しいかな文字で文をつづっているようだ。感性の豊かさに惹かれました。二句目、梅雨にけぶる寺の本堂。皆で唱和する御詠歌を佛様も聴いておられます。唱えているうちに体から邪気が抜け、清々しい気分になれそうです。「千年を繙く」に作者の深い思いを感じます。三句目、街から離れた集落にある店は、食品、雑貨、生活用品何でもそろったよろづ屋です。お客様も皆顔見知り。笑顔で会話を弾みます。燕も大空を伸び伸びと楽しそう。

广 告

